

令和 4 年度 第 2 回栃木県公共事業評価委員会資料

快適で安全な道づくり事業

(主要地方道宇都宮向田線 板戸大橋)

- | | |
|--------------------|-----------|
| ・ 自己評価書及び事業概要図 | P. 2 ～ 5 |
| ・ パブリック・コメントの概要 | P. 6 |
| ・ パブリック・コメントの実施案内 | P. 7 |
| ・ 提出意見とそれに対する県の考え方 | P. 8 |
| ・ 説明用資料 | P. 9 ～ 21 |

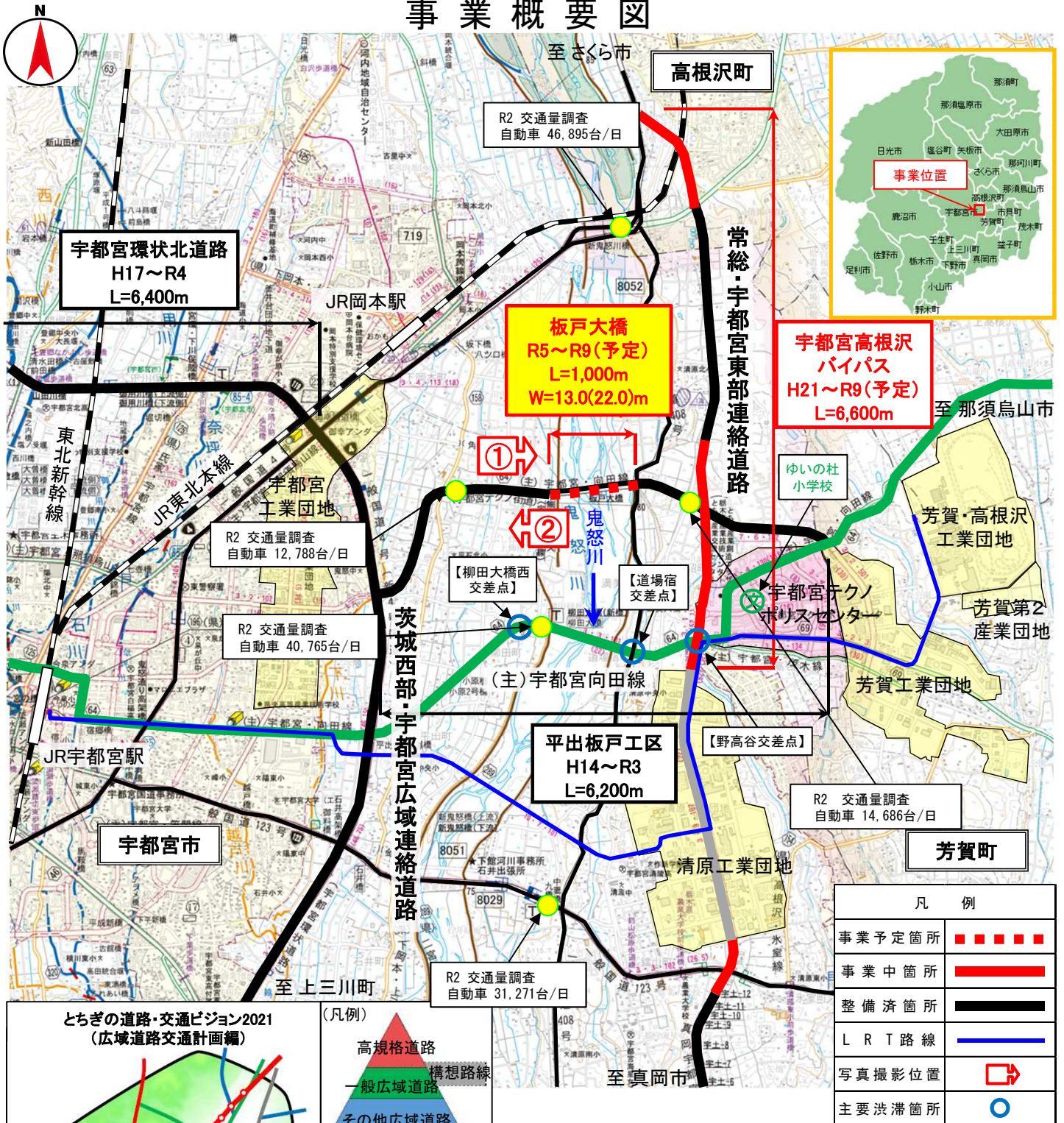
事業の概要

担当課：道路整備課

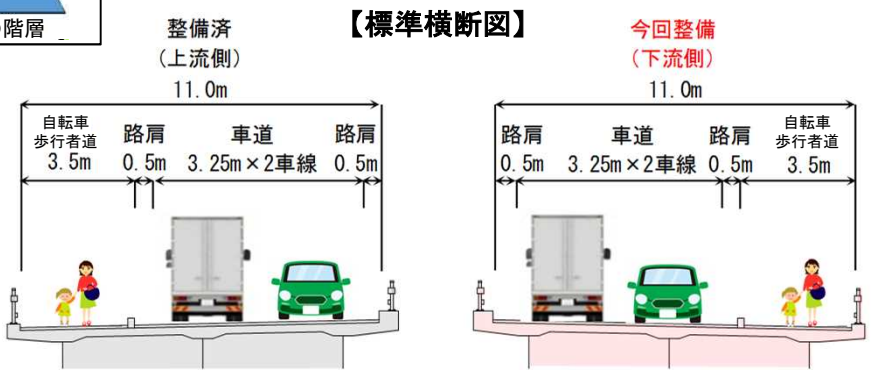
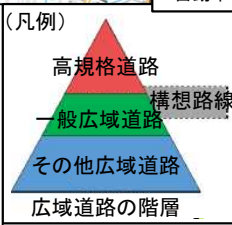
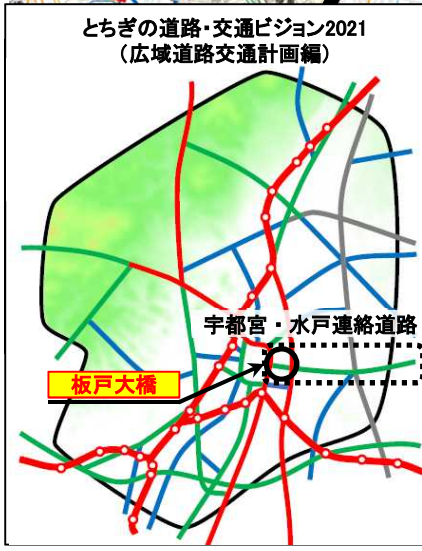
事業名	快適で安全な道づくり事業		事業主体	栃木県
事業箇所	主要地方道宇都宮向田線 ^{うつのみやもとかだ} 板戸大橋 ^{いたとおおほし} 宇都宮市下岡本町 ^{しもおかもとちょう} ～宇都宮市板戸町 ^{いたどまち}			
事業の目的、事業発案の経緯・背景 本路線は、「とちぎの道路・交通ビジョン2021（R3.6）」において一般広域道路「宇都宮・水戸連絡道路」（以下「宇都宮・水戸連絡道路」という。）に位置づけられているとともに、交通結節点であるJR宇都宮駅から新4号国道や国道408号を横断し、鬼怒川左岸地域に位置する大規模な工業団地群（清原、芳賀、芳賀・高根沢など）にアクセスする、本県の産業・経済活動を支える重要な路線である。 しかしながら、現道（柳田街道）においては、柳田大橋周辺で朝夕を中心に慢性的な交通渋滞が発生しており、通勤通学などの日常生活や物流などの産業・経済活動に大きな支障をきたしている。 このため、平成14年度から新たな橋梁（板戸大橋）を含むバイパス整備（愛称：「宇都宮テクノ街道」）に着手し、平成31年3月までに全区間を暫定2車線（一部完成4車線）で、令和4年3月までに板戸大橋を除く約5.2kmを完成4車線で整備したところである。 今後のさらなる交通量増加に対応するため、引き続き本事業箇所の4車線化を行い、交通渋滞の緩和、物流の効率化および地域間の連携・交流の促進を図るものである。				
事業内容 ・バイパス事業（主要地方道宇都宮向田線平出板戸工区）における暫定2車線区間（橋梁部）の4車線化				
・総延長：1,000m ・計画交通量：25,700台/日 ・道路区分：第3種第2級 ・車線数：4車線 ・標準幅員：全幅（上流側整備済）22.0m（車道3.25m×4、路肩0.5m×4、歩道3.5m×2） うち今回整備（下流側）11.0m（車道3.25m×2、路肩0.5m×2、歩道3.5m×1） ・主要構造物：橋梁1橋（橋長L=920m）				
事業予定期間	令和5年度～令和9年度（予定）	事業見込額及び内訳	総事業費	約66億円
	【事業スケジュール（予定）】 構造物詳細設計：令和5年度 工事実施：令和6年度～令和9年度		事業費内訳	測量設計費：約 2億円 工事費：約 64億円
		財源内訳		国費： 県費：
事業概要図 別紙記載				
県計画への位置付け ・「県土づくりプラン2021」：重点施策「成長を支える広域道路ネットワークの充実・強化」に位置づけられている。 ・「とちぎの道路・交通ビジョン2021」：「宇都宮・水戸連絡道路」に位置づけられている。 ・「宇都宮都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」：広域的な移動や連携の促進を図る「広域連携軸」に位置づけられている。				
他計画・他事業との関連 ・「宇都宮市都市計画マスタープラン」：円滑な自動車交通と都市活動を支える上での骨格となる「地域連携交流軸」に位置づけられている。 ・芳賀第2産業団地 R4分譲完了（予定）物流・製造業等5社 ・宇都宮テクノポリスセンター地区において「ゆいの杜小学校」が開校 R4 ・主要地方道宇都宮向田線 平出板戸工区 H14～R3 ・高規格道路「茨城西部・宇都宮広域連絡道路」宇都宮環状北道路 H17～R4 ・高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」宇都宮高根沢バイパス H21～R9（予定） ・宇都宮市・芳賀町 LRT事業 ～R5.8（予定）				

事業の評価		
評価の視点	1 事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・本県中央地域の東西交通軸を強化し、地域間の連携・交流の促進を図るため、「宇都宮・水戸連絡道路」を整備する必要がある。 ・物流ネットワークを強化し、県内の工業団地における製造品出荷額の約4割を占める鬼怒川左岸地域の工業団地群における産業・経済活動を支援する必要がある。 ・慢性的な交通渋滞を解消させ、交通事故を削減するため、バイパス機能を強化し、現道からバイパスへの交通転換を図る必要がある。
	2 事業の適時性 (今事業に着手する理由等)	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業箇所前後の平出板戸工区の整備が令和4年3月に完成4車線で完了し、高規格道路「茨城西部・宇都宮広域連絡道路」宇都宮環状北道路の整備が令和4年7月に完了した。 ・また、高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」宇都宮高根沢バイパスの整備が令和9年度の完了を予定している。 ・今後のさらなる交通量増加への対応や道路ネットワークとしての効果を最大限発現させるため、本事業に早期に着手する必要がある。
	3 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> ・暫定2車線で整備済みの橋梁の下流側に、残る2車線分の橋梁を整備する計画であり、既に計画区間の用地を取得しているため、本計画が最適である。
	4 事業手法の適切性 (県が事業主体となる理由等)	<ul style="list-style-type: none"> ・広域的な幹線道路である主要地方道宇都宮向田線として整備することから、県が事業を実施する。
	5 事業により予想される効果及び影響 (機能的な効果 ・経済的な効果 ・他計画、他事業への波及効果 ・環境への影響など)	<p>○投資効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用便益比 (B/C) 2.0 (2車線から4車線化) ・総便益 (B) 105.7億円 ※供用後50年間の効果を金銭に換算したものの走行時間短縮(96.8億円)、走行経費減少(7.4億円)、交通事故減少(1.5億円) ・総費用 (C) 52.2億円 ※建設費と供用後50年間の維持管理費を含む <p>○「宇都宮・水戸連絡道路」として道路ネットワークを強化することで、地域間の連携・交流の促進が図られる。</p> <p>○新4号国道や国道408号と鬼怒川左岸地域の大規模な工業団地群との連絡が図られることで物流ネットワークが強化され、産業・経済活動の支援につながる。</p> <p>○現道交通がバイパスに転換されることで、交通渋滞の解消や交通事故の削減につながり、安全・安心で円滑な道路交通が確保される。</p>
	6 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術の採用を検討するなど、コスト縮減を図る。 ・合成床版の採用を検討するなど、ライフサイクルコストの縮減を図る。 ・再生材の利用や、建設発生土の公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る。
事業の対応方針(案)	本事業については、令和5年度より着手する。	

事業概要図



凡 例	
事業予定箇所	■■■■■
事業中箇所	■■■■■
整備済箇所	■■■■■
L R T 路線	—
写真撮影位置	📷
主要渋滞箇所	⊙



①全景



②朝夕を中心に渋滞（橋梁右岸側）



パブリック・コメントの概要

栃木県公共事業評価実施要領第4の2に基づき、公共事業事前評価（自己評価書）に対するパブリック・コメントを実施し、県民からの意見を聴取しました。

1 実施について

- (1) 事業名：快適で安全な道づくり事業
(主要地方道 宇都宮向田線板戸大橋)
- (2) 実施機関：栃木県（県土整備部 道路整備課）
- (3) 実施期間：令和4（2022）年9月9日（金）～令和4（2022）年10月11日（火）
- (4) 閲覧資料：自己評価書、事業概要図
- (5) 閲覧方法：
 - ① 栃木県ホームページ
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/h04/system/honchou/imaizumi.htm>
 - ② 文書閲覧
 - ・ 県民プラザ（栃木県庁舎本館2階）
 - ・ 上都賀県民相談室（上都賀庁舎1階）
 - ・ 芳賀県民相談室（芳賀庁舎1階）
 - ・ 下都賀県民相談室（下都賀庁舎1階）
 - ・ 小山県民相談室（小山庁舎1階）
 - ・ 塩谷県民相談室（塩谷庁舎1階）
 - ・ 那須県民相談室（那須庁舎1階）
 - ・ 南那須県民相談室（南那須庁舎1階）
 - ・ 安蘇県民相談室（安蘇庁舎1階）
 - ・ 足利県民相談室（足利庁舎1階）
 - ・ 宇都宮土木事務所（河内庁舎2階）
- (6) その他、記者クラブへの資料提供（令和4（2022）年9月8日）

2 結果について

提出件数：3件（意見者の居住地：宇都宮市、芳賀町）
提出方法：メール3件（事業推進3名、事業反対0名）

3 結果の公表について

パブリック・コメントの結果は、今回の公共事業評価委員会の審議を経た後、公表します。

快適で安全な道づくり事業（主要地方道 宇都宮向田線 板戸大橋）に対するパブリック・コメント（県民意見の募集）の実施について

栃木県では、道路事業の計画段階において、県民の皆さんから幅広く御意見を聞きながら、事業推進の必要性や妥当性を検討していくこととしています。

今回、新たに着手しようとしている事業について、これまでの県の検討概要を取りまとめた自己評価書及び事業概要図を下記のとおり公表しますので、県民の皆さんの御意見をお寄せください。

1 公表する資料

- (1) 快適で安全な道づくり事業（主要地方道 宇都宮向田線 板戸大橋）の自己評価書及び事業概要図

2 資料の閲覧方法

- (1) ホームページ <https://www.pref.tochigi.lg.jp/h04/system/honchou/imaizumi.html>

- (2) 文書閲覧

・県民プラザ	宇都宮市塙田1-1-20（栃木県庁舎本館2階）	電話 028-623-3766
・上都賀県民相談室	鹿沼市今宮町1664-1（上都賀庁舎1階）	電話 0289-64-9419
・芳賀県民相談室	真岡市荒町116-1（芳賀庁舎1階）	電話 0285-82-5888
・下都賀県民相談室	栃木市神田町6-6（下都賀庁舎1階）	電話 0282-24-5665
・小山県民相談室	小山市犬塚3-1-1（小山庁舎1階）	電話 0285-22-9164
・塩谷県民相談室	矢板市鹿島町20-22（塩谷庁舎1階）	電話 0287-43-2142
・那須県民相談室	大田原市中央1-9-9（那須庁舎1階）	電話 0287-23-1555
・南那須県民相談室	那須烏山市中央1-6-92（南那須庁舎1階）	電話 0287-83-1555
・安蘇県民相談室	佐野市堀米町607（安蘇庁舎1階）	電話 0283-24-2603
・足利県民相談室	足利市伊勢町4-19（足利庁舎1階）	電話 0284-42-9700
・宇都宮土木事務所	宇都宮市竹林1030-2（河内庁舎3階）	電話 0286-23-3123

3 意見の募集期間

令和4（2022）年9月9日（金曜日）から令和4（2022）年10月11日（火曜日）必着

4 意見の提出先及び問合せ先、提出方法

- (1) 提出先及び問合せ先 〒320-8501
宇都宮市塙田1-1-20（栃木県庁舎本館13階）
栃木県県土整備部道路整備課整備調査担当
電話 028-623-2413

- (2) 提出方法

次のいずれかの方法により日本語で提出してください。様式は任意ですが、住所、氏名、電話番号を記載してください。県外居住の方は、県内の通勤、通学先の所在市町名も併せて記載してください。

- ・郵送 上記4（1）のとおり
- ・ファックス 028-623-2417
- ・電子メール doro-seibi@pref.tochigi.lg.jp

5 意見の取扱い

- (1) お寄せいただいた御意見は、十分に考慮の上、計画に反映するとともに、内容ごとに整理・分類した上で、これに対する県の考え方を公表いたします。
- (2) 住所・氏名などの個人に関する情報及び個人の特定につながる内容は公表しません。また、他の目的で使用することはありません。
- (3) 個々の御意見に直接回答はいたしませんので、御了承願います。

【提出意見とそれに対する栃木県の考え方】

「快適で安全な道づくり事業（主要地方道 宇都宮向田線板戸大橋）」に対する意見募集を行った結果、3名の方から御意見を頂きました。貴重な御意見ありがとうございました。

提出された御意見を十分検討の上、それに対する県の考え方を次のとおりまとめました。

項 目	意 見 の 内 容	意見に対する考え方
事業推進	<p>板戸大橋を早期に4車線化していただきたいです。</p> <p>水曜日や週末に宇都宮市内方面に向かう際、板戸大橋がボトルネックとなり混雑し、国道408号バイパスから板戸大橋を渡り切るまでに30分程度を要することがあります。</p>	<p>本事業により、板戸大橋を4車線化することで、円滑な交通が確保されるものと考えています。</p> <p>事業着手後は、早期完成に向けて事業推進に努めて参ります。</p>
事業推進	<p>芳賀町下高根沢に拠点があります弊社は、令和4年5月の連休明けから出社を前提とした働き方へ移行し、JR宇都宮駅東口から会社まで通勤に2時間以上かかる時間帯が発生しました。</p> <p>地域住民の皆様や、近隣地域企業の皆様に多大な影響があると判断し、6月から午前7:30までに出社を3割、7:30～12:00出社を4割、午後出社を3割とする出社調整を行っております。</p> <p>これにより、多少の渋滞緩和が図られどの時間帯においても、JR宇都宮駅東口から会社まで1時間以内の通勤時間となっておりますが、今回の施策は短期的には従業員の皆様に許容いただけると考えますが、長期的には難しい施策と考えています。</p> <p>従って、社員のストレスが少なく安心して出勤できるよう交通インフラの早期整備（主要地方道 宇都宮向田線 板戸大橋の4車線化）を是非ご検討いただきたくお願いいたします。</p>	<p>本事業により、板戸大橋を4車線化することで、円滑な交通が確保されるものと考えています。</p> <p>事業着手後は、早期完成に向けて事業推進に努めて参ります。</p>
事業推進	<p>板戸大橋が2車線のため、橋の両サイドが4車線になっても橋の手前で右側車線が左側車線に合流となるため、特に通勤渋滞時は合流しづらく、渋滞緩和と車線の有効活用ためにも、早急に板戸大橋の4車線化に取り組んでいただけるとありがたいです。</p>	<p>本事業により、板戸大橋を4車線化することで、円滑な交通が確保されるものと考えています。</p> <p>事業着手後は、早期完成に向けて事業推進に努めて参ります。</p>

快適で安全な道づくり事業

主要地方道 宇都宮向田線

いたどおおはし
板戸大橋

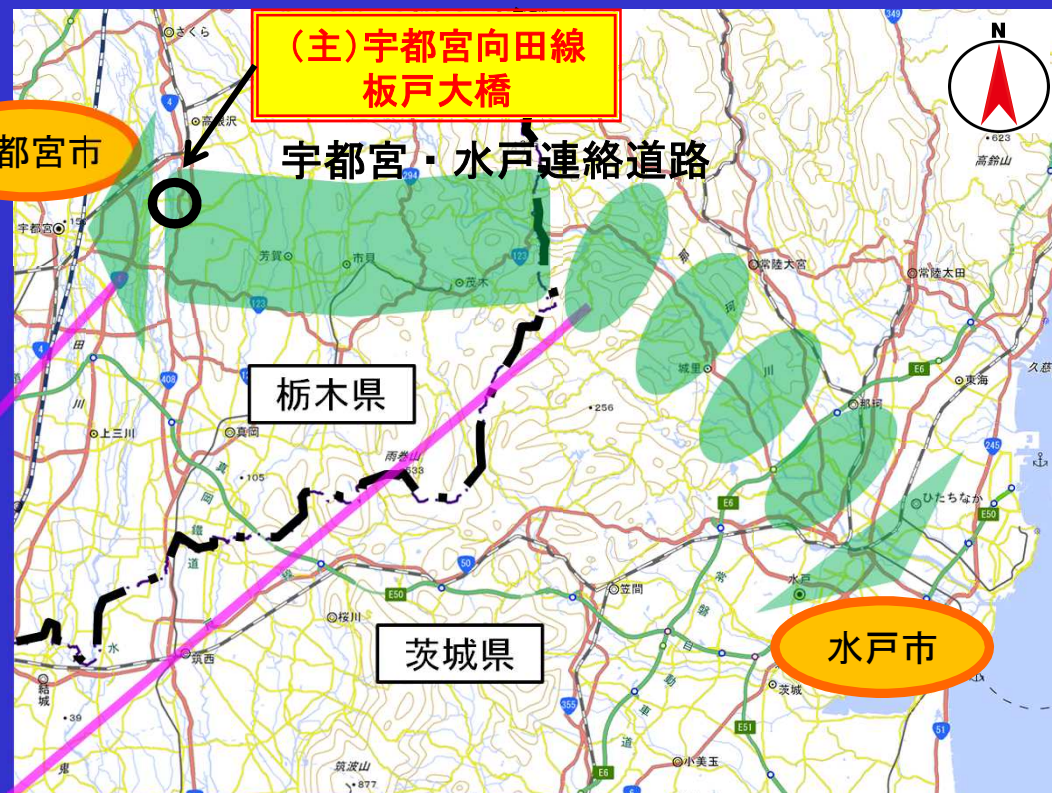
県土整備部 道路整備課



【位置図】

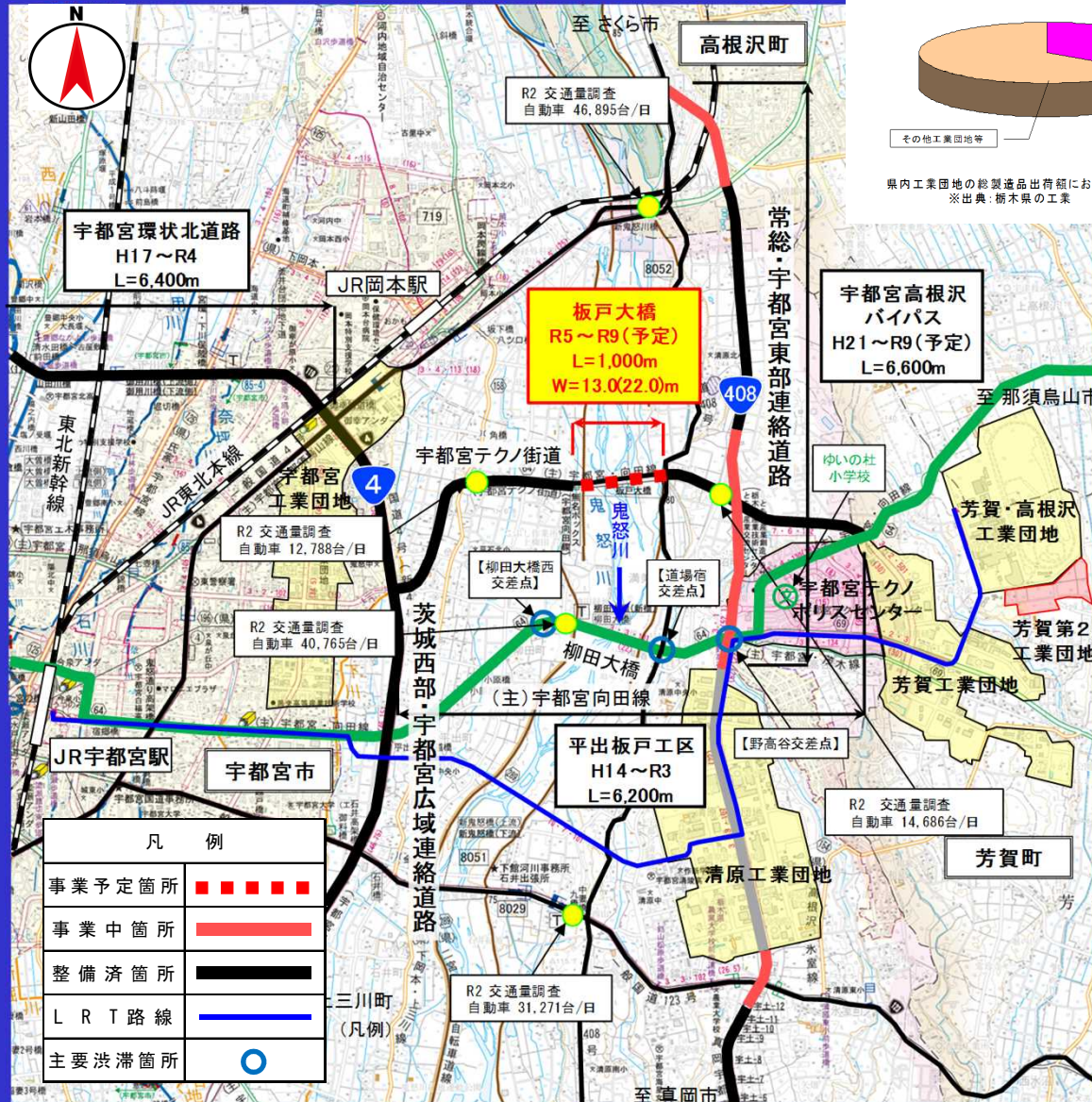


【事業箇所の概要】

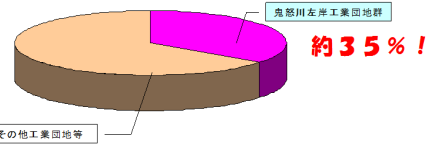


- ・(主)宇都宮向田線は、広域道路交通計画において一般広域道路「宇都宮水戸連絡道路」に位置付けられた道路
- ・宇都宮市と茨城県水戸市を結ぶ広域道路の一部を構成

【事業箇所の概要】

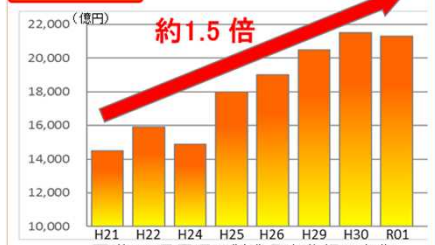


県内工業団地の総製品出荷額における鬼怒川左岸地区の占める割合



県内工業団地の総製品出荷額における鬼怒川左岸地区の占める割合
※出典: 栃木県の工業

製造品出荷額



国道408号周辺の製造品出荷額の変化
出典: 栃木県 工業統計調査結果報告書
※H23、H27、H28年度の製造品出荷額等は、調査方法が異なるためデータを収集していない。

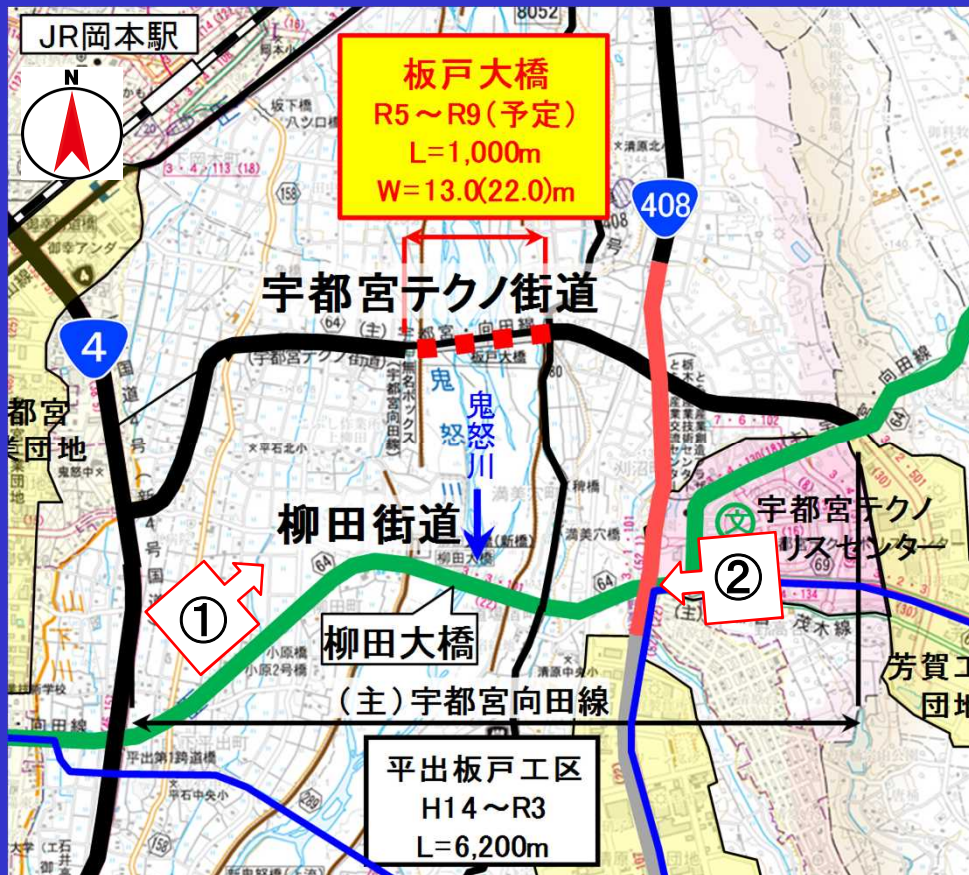
- 鬼怒川左岸地区工業団地群の製造品出荷額は、本県全体の約35%を占め、本県の産業活動の一大拠点
- 製造品出荷額は、平成21年から令和元年までの間で約1.5倍に増加
- 鬼怒川左岸地区では新工業団地の芳賀第2工業団地が令和4年12月に分譲完了予定
- 宇都宮テクノポリスセンター地区では、平成20年から平成29年までの間で人口が約5.4倍に増加

主要地方道宇都宮向田線は、JR宇都宮駅から新4号国道や国道408号バイパスを連絡するなど、本県経済を牽引する工業団地の産業活動を支える役割は大きい

【事業の目的】

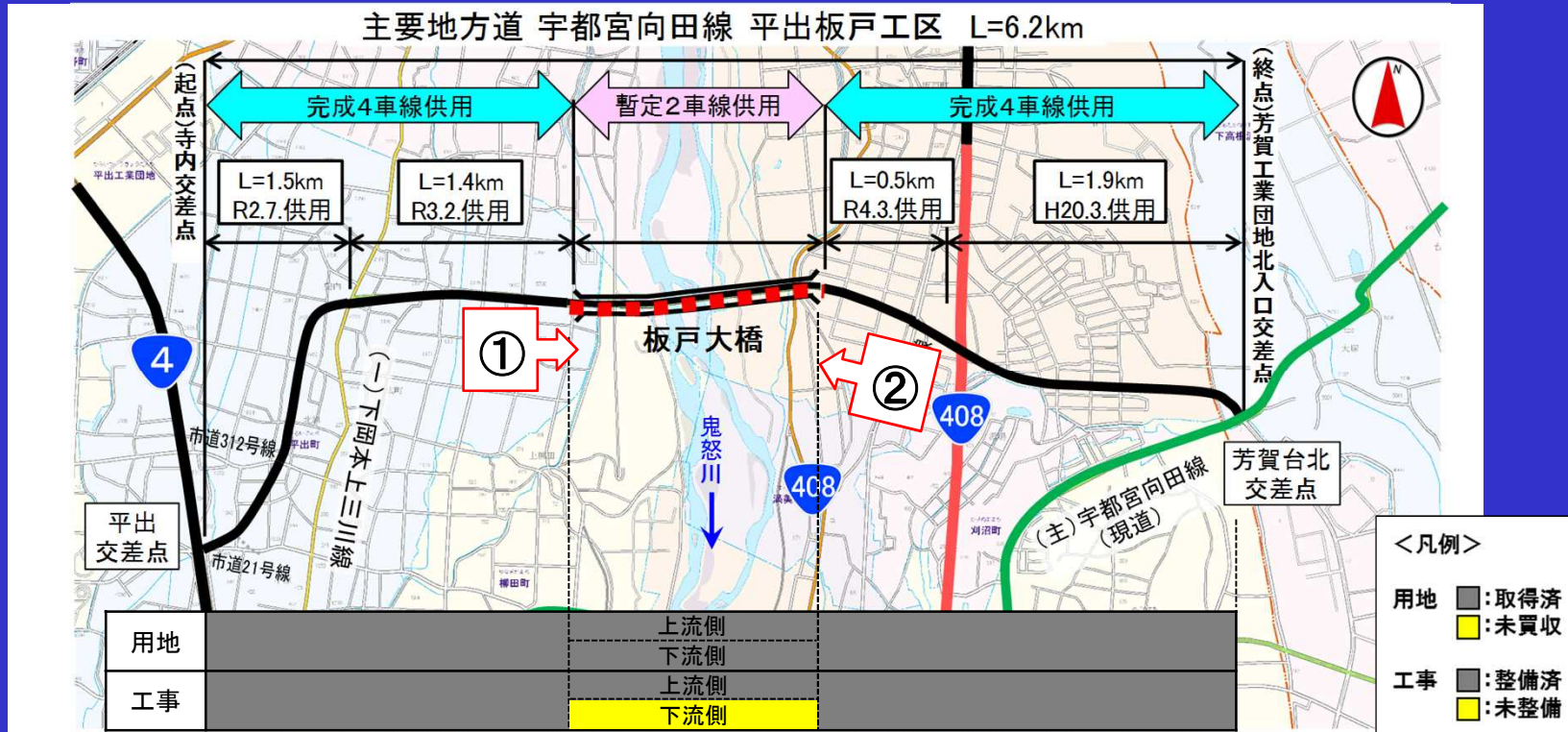
■渋滞緩和

柳田街道の渋滞状況



柳田大橋周辺で朝夕を中心に慢性的な渋滞が発生

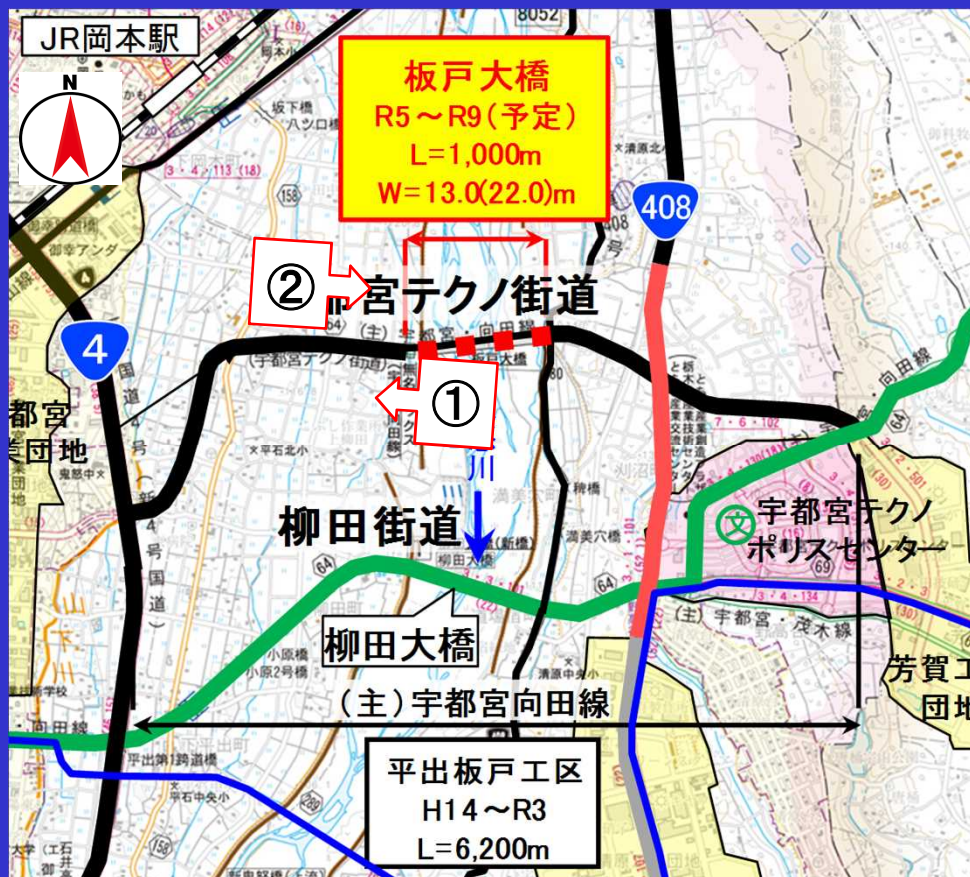
【宇都宮テクノ街道の整備状況】



【事業の目的】

■渋滞緩和

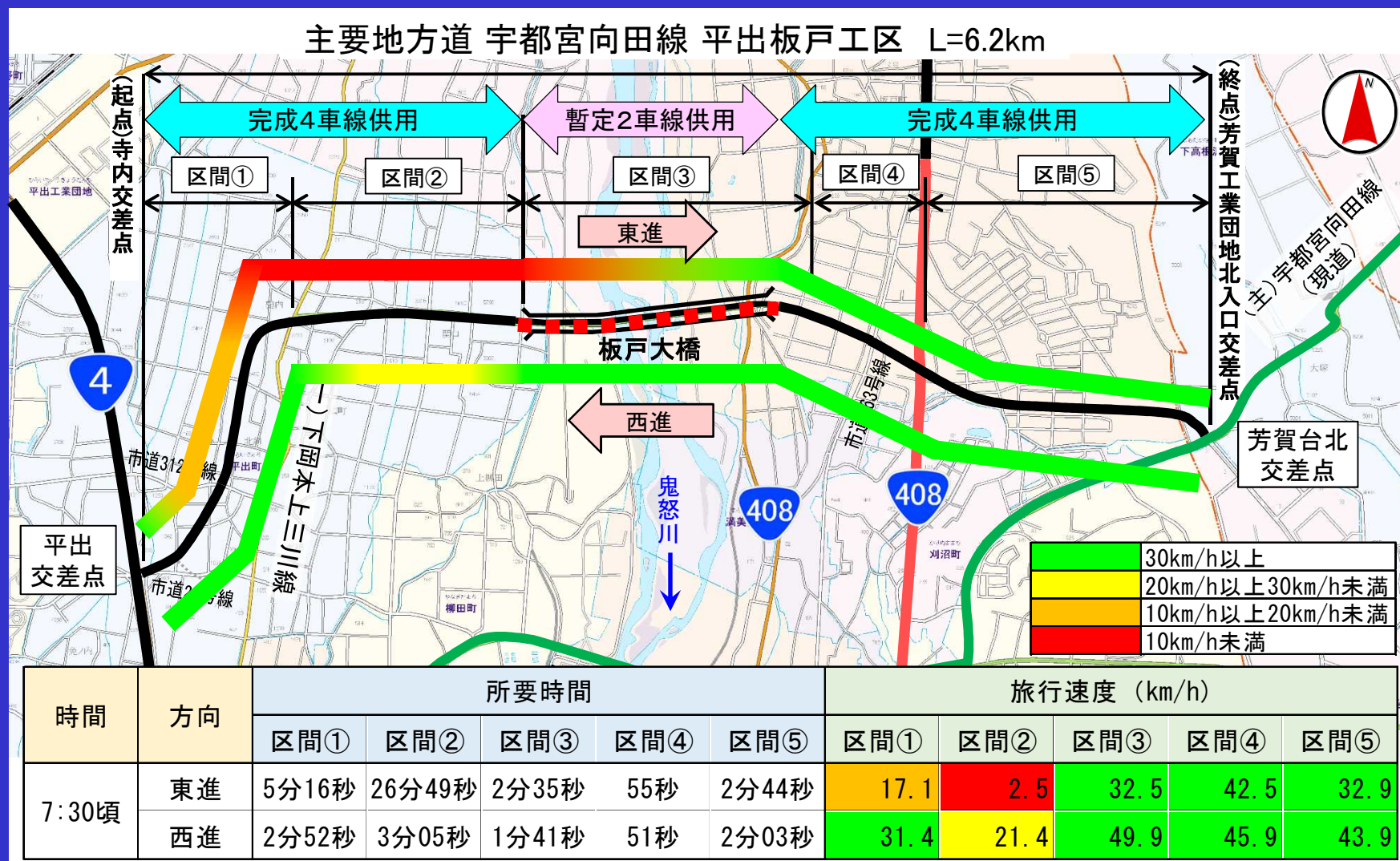
宇都宮テクノ街道の渋滞状況



板戸大橋周辺で朝夕を中心に
慢性的な渋滞が発生

【事業の目的】

■ 渋滞緩和 旅行速度調査結果（令和4年10月5日（水）7:30頃）



朝の通勤時間帯において板戸大橋周辺で渋滞が発生

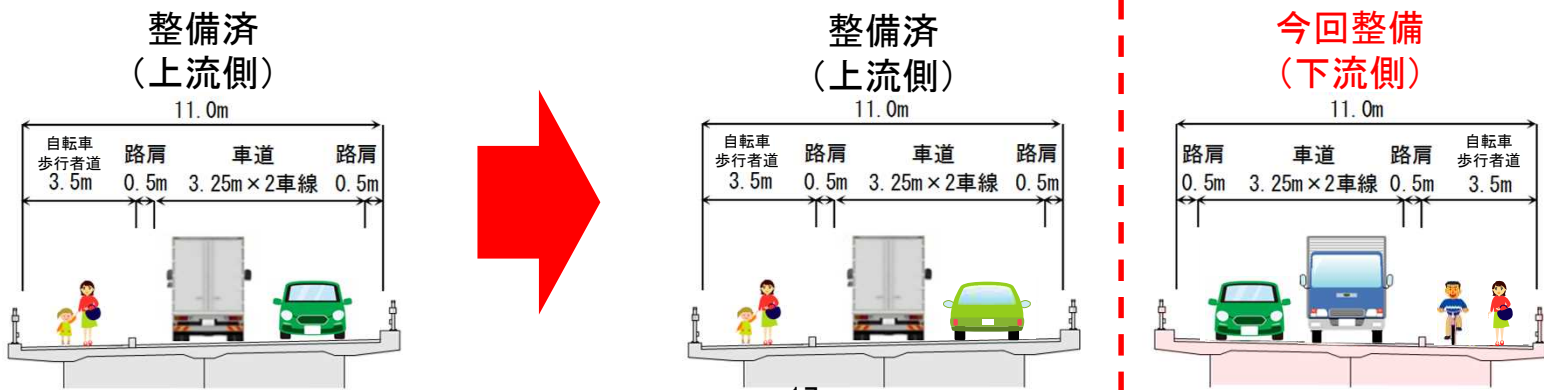
【事業内容】



バイパス事業（主要地方道宇都宮向田線平出板戸工区）
における暫定2車線区間（橋梁部）の4車線化

- ①総延長：1,000m
- ②計画交通量：25,700台/日
- ③道路区分：第3種第2級
- ④車線数：4車線
- ⑤標準幅員：31.0m
全幅（上流側整備済）22.0m（車道3.25m×4，路肩0.5m×4，歩道3.5m×2）
うち今回整備（下流側）11.0m（車道3.25m×2，路肩0.5m×2，歩道3.5m×1）
- ⑥主要構造物
橋梁（板戸大橋）1橋（橋長L=920m）

【標準横断面（鬼怒川渡河部）】



【事業予定期間】

令和5年度～令和9年度

【事業スケジュール(予定)】

	R5	R6	R7	R8	R9
橋梁詳細設計	●————●				
用地	取得済み				
工事		●————●			●

【事業見込額及び内訳】

総事業費：約66億円

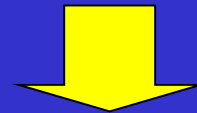
【事業費内訳】

測量設計費	約2億円
用地費	—
工事費	約64億円

【事業の投資効果①】

費用便益比 (B/C)	便益(B) (億円)	費用(C) (億円)
2.0	105.7	52.2

- ・総便益(B) ※供用後50年間の効果を金銭に換算したもの
走行時間短縮(96.8億円)、走行経費減少(7.4億円)、交通事故減少(1.5億円)の合計
- ・総費用(C) ※建設費と供用後50年間の維持管理費を含む



投資効果が得られる

【事業の投資効果②】

- 「宇都宮・水戸連絡道路」として道路ネットワークを強化することで、地域間の連携・交流の促進が図られる。
- 新4号国道や国道408号と鬼怒川左岸地域の大規模な工業団地群との連絡が図られることで物流ネットワークが強化され、産業・経済活動の支援につながる。
- 現道交通がバイパスに転換されることで、交通渋滞の解消や交通事故の削減につながり、安全・安心で円滑な道路交通が確保される。

【事業のコスト縮減】

- 新技術の採用を検討するなど、コスト縮減を図る。
- 合成床版の採用を検討するなど、ライフサイクルコストの縮減を図る。
- 再生材の利用や、建設発生土の公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る。